

その後のことをまとめると

- 新幹線での会話
- 東京駅で食べたハンバーグが美味しかった
- 東京駅から水道橋まで父の先導で行けた  
(若い頃東京暮らしが長かった父は  
今でも乗り換えが頭で分かる)
- 東京ドームホテル40階ラウンジでのひととき。
- 父が試合前に部屋で小眠りしている間、母と  
「父の長袖」を買いに行ったこと。
- 東京ドームに何十年ぶりに入った瞬間の気持ちの高揚感。
- ドーム内では現金が一切使えず、「章と来なったら飲ます食わすやたね」と笑っていたこと。
- 選手に声援(時には叱咤、時には嘆き)を送る父。
- 絶好調ヤクルトを相手に勝利でハイタッチ。
- ホテルで3人で寝た(僕は補助ベッド)
- 食べきれないくらいの朝食バイキング
- 勝利の興奮冷めやらぬ内に入ったショップで母が購入したのが、ヤクルト応援歌「東京音頭」  
で使う傘だったこと♡



すべてがいい思い出として胸に刻まれている。

チェックアウトの際、フロント横にあった七夕飾りを見かけ、歩いていく父。父の隣で書いてみた。  
父「巨人軍、昨夜の勝利おめでとう！今夜の健闘も祈っています」  
章「次回も家族で観戦に来れますように！！」  
父の衰えないジャイアンツ愛(笑)を見て、また来よう！と心に誓った。



弾丸ツアーを終え、帰りの新幹線。お互いに「楽しかったね」と言いつつはしの眠り。  
富山駅で僕だけが降り、窓越しに手を振る。一緒に行けた嬉しさ。無事に帰ってこけた  
安堵感。別れ際の切なさはいつもより大きめ。

その夜、母からラインが届いた。

「章くん、2日間ありがとう。ハラハラドキドキの試合だったけど、ジャイアンツ勝たし、  
お父さんも私も大満足。それにホテルもサービス満点、食事も音隆も居心地よく。でも章と一緒に  
楽しい時間を共有できたことが何より嬉しいことでした。おかげで久しぶりの旅を満喫できました。  
ありがとうね。」

次の日の夕方、実家に電話をかけた。

僕「昨日は楽しかったね。疲れでてない？」

母「大丈夫！お父さん、今日もジム行ってんよ！」

僕「え、まじで!? すごいね!!」

母「お父さん、章から電話、でる？」

父「おー章か！楽しい旅行をありがとう」

父と電話で話したのは久しぶりだった。  
そのことが旅をより思い出深いものにしてくれた。